

# アーカイブユニット

今村文彦(ユニット長), 佐藤大介, 柴山明寛, 蝦名裕一, セバスティアン・ボレー, エリザベス・マリ, ゲルスタ・ユリア

## 歴史資料の保全活動



- 2021年2月13日に発生した福島沖地震で被災した宮城県山元町、福島県新地町における歴史資料の被災状況調査を実施した。この中で、被害が大きかった新地町の歴史資料について、ふくしま資料ネットと共同で民間所在資料の情報を共有して調査を実施し、地震の被災によって解体が決定した土蔵内の文書や民俗資料のレスキューを実施した。
- 2020年6月 市民との協働による古文書解読の成果として、仙台藩領の商家当主による日記、約9万字をウェブ公開した。  
<http://hdl.handle.net/10097/00127878>
- 2020年8月/2021年1月 北海道大学などとの共催で、COVID-19下の社会状況に関する記録収集の現状と課題について共有するワークショップをオンライン開催した。

## 東日本大震災かたりベシンポ「かたりつぎin多賀城」



- 東日本大震災の記憶と記録を後世に伝え残すために、俳優竹下景子さんをお招きした東日本大震災語りベシンポジウム「かたりつぎin 大船渡」を2021年3月6日に開催した。新型コロナウイルスの感染拡大の防止のため観客を50%まで制限し、400人の来場者があった。
- (1) 挨拶 深谷晃祐氏(多賀城市長)
  - (2) 講演 志賀野桂一氏(東北文化学園大学特任教授)
  - (3) 報告 柴山明寛准教授(災害研)
  - (4) 合奏 塩釜コカリナ合奏団
  - (5) 朗読 竹下景子(俳優)

## 東日本大震災アーカイブ国際シンポジウム



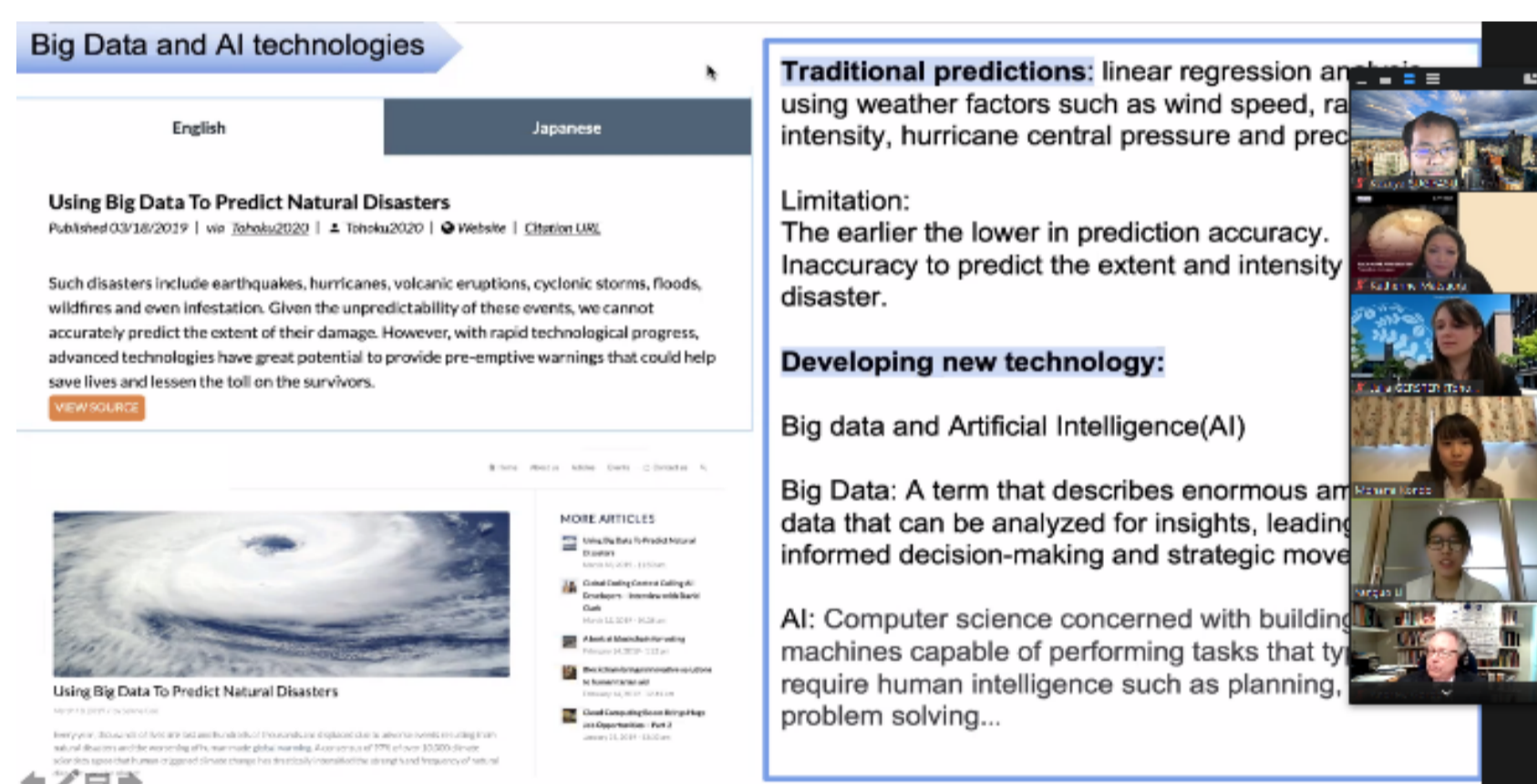
国立国会図書館との共催の令和2年度東日本大震災アーカイブシンポジウム—これまでの10年とこれからの10年—を2021年1月11日にオンラインで実施した。事例報告は、大槌町震災アーカイブ(大槌町北田副町長)、東日本大震災・原子力災害伝承館(瀬戸先生)。震災10年ということで統括報告として、宮城県図書館、NHK放送文化研究所、国立国会図書館、東北大学の報告及びパネルディスカッションを行った。特別ビデオ出演としてハーバード大学のゴードン教授が出演した。参加者は、170名であった。

## 三陸TSUNAMIウェビナー



岩手県東日本大震災津波伝承館主催の「三陸TSUNAMIウェビナー」を実施しました。本実施にあたり、災害研のリズマリ准教授、ボレー准教授、ユリア助教、柴山准教授が会議を運営等を行いました。ウェビナーの登壇者は、ハワイ太平洋津波博物館の館長(アメリカ)、アチエ津波博物館の館長(インドネシア)、東日本大震災津波伝承館の副館長、ハワイ大学の教員、シャクアラ大学の教員などになります。本動画は、岩手県公式動画チャンネル(YouTube)『三陸 TSUNAMI ウェビナー』で閲覧することができます。

## ハーバード大学との震災アーカイブの活用



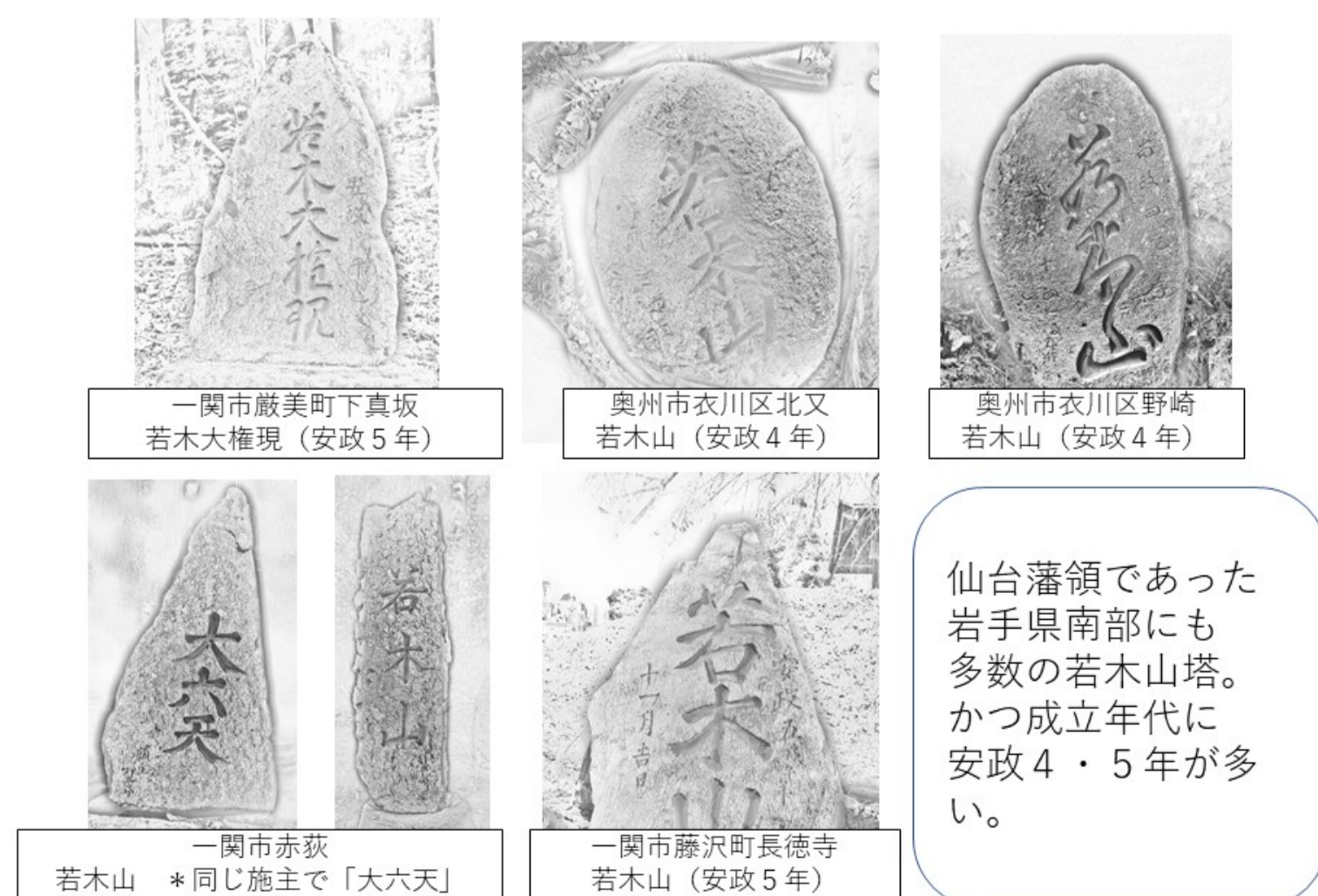
東北大学大学院生10名に対して、ハーバード大学エドウィン・O・ライシャワー日本研究所が開発した東日本大震災デジタルアーカイブを用いた教訓の活用方法の授業を実施した。2020年12月9日には、ハーバード大学のアンドリュー・ゴードン教授らとオンライン上でハーバード大学との共同ワークショップを開催し、学生らが自らまとめた成果を発表、今後の災害アーカイブの活用方法などについて議論を行った。

## 「疫病退散プロジェクト」

新型コロナウイルス感染拡大に対応し、疫病文化の情報収集と、文医連携による事例研究を実施する「疫病退散プロジェクト」を展開。Webサイトを開設し市民に向けて疫病文化情報の提供と研究への参画を呼びかけ、シチズンサイエンス方の研究展開を試みた。



岩手県南部の石碑調査から



今年度は宮城県および岩手県南部を中心に、疫病碑の調査を実施した。石碑の撮影にあたっては、非接触で文字を判読する「ひかり拓本」技術に夜碑文情報の収集をおこなった。

2020年度の「疫病退散プロジェクト」の成果報告として、2月11日にシンポジウム「歴史が導く災害科学の新展開IV—先人の疫病文化に学ぶ—」をオンラインで開催。シンポジウムの内容とプロジェクトの成果をまとめた報告書を刊行した。

